

まちの取り組み①

会館を拠点に、人と人がつながる地域へ

形原4区では地域の会館を拠点に、草取りや側溝の掃除を行う「お助け隊」、イベントを企画運営する「しあわせの会」が活動しています。高齢化や少子化、コロナ禍による交流の減少を背景に、「人と話す場がほしい」という地域の声を受け、会館を起点に人のつながりをつくろうと、住民主体で活動が始まりました。活動を通して、住民同士のつながりが広がり、会館を利用する機会も大きく増えました。健康が大前提にあり、その上で人との関わりがあってこそ幸せにつながる。そんな思いが活動を支えています。



まちの取り組み②

学びから生まれた「みんなが語るイス」

三谷小の5年生は、総合学習でSDGsやサーキュラーシティについて学ぶ中で、「意識次第でどんな取り組みもウェルビーイングにつながる」ということに気付きました。そこで、「自分たちにできること」をテーマにアイデアを出し合い、段ボールや牛乳パックを再利用した「みんなが語るイス」を作ることに。クラスや学年を超えて人が集まり、話ができる場所をつくりたいという思いから生まれたイスです。

はじめは自分や身近な人の幸せを考えていましたが、活動を通じて「もっと多くの人に喜んでもらいたい」という思いが芽生え、子どもたちの視点は学校全体や地域、さらには社会へと広がっています。



私たちは何ができるか

特別なことをする必要はありません。日常の中で「楽しい」「心地いい」と感じることに意識を向け、行動してみましょう。

例えば、

- ・ まちの緑や海を眺めながら歩いてみる
- ・ 気になっていた場所に出かけてみる

こうしたほんの些細な行動が幸せにつながり、結果として健康にもつながります。幸福を感じるためには、心だけでなく体の健康も欠かせません。だからこそ、健康のための行動を意識しなくても、まちに出ること自体が知らず知らずのうちに健康につながる。そんなまちを目指していきます。まずは、自分にとっての「楽しい」「心地いい」を見つけて、できることから始めてみませんか。

